

2020年3月10日

各位

会社名 株式会社ビザスク  
代表者名 代表取締役社長 CEO 端羽 英子  
(コード番号: 4490 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役CFOコーポレートグループ長 安岡 徹  
(TEL 050-3733-8513)

### 東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2020年3月10日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2020年2月期(2019年3月1日から2020年2月29日)における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添の通りであります。

#### 【個別】

(単位: 百万円、%)

項目	決算期	2020年2月期 (予想)		2020年2月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年2月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率			
営業収益		960	100.0	56.3	697	100.0	614	100.0
営業利益		60	6.3	137.9	61	8.8	25	4.1
経常利益		45	4.7	86.9	57	8.2	24	3.9
当期(四半期)純利益		53	5.5	92.8	54	7.9	27	4.5
1株当たり当期 (四半期)純利益		6円90銭		7円16銭		3円58銭		
1株当たり配当金		0円00銭		—		0円00銭		

(注) 1. 当社は、連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。

2. 2019年8月30日付で、普通株式1株につき50株の株式分割を行っておりますが、2020年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。

3. 2019年2月期(実績)及び2020年2月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。

## 【2020年2月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社の見通し

当社は「世界中の知見をつなぐ」をビジョンに掲げ、「組織、世代、地域を超えて知見を集めつなぐこと」で、世界のイノベーションに貢献することをミッションとして事業を展開しております。

近年、驚異的なスピードでテクノロジーが進化し、将来の予測が難しく変化の激しい事業環境となっている中、スピーディーな問題解決やイノベーション創出のため、大企業から中小企業、ベンチャー経営者など、多様な顧客層において、既に文字化されたインターネット上にある情報だけではなく、必ずしも文字化されていない、個々人の経験に基づく活きたビジネス知見へのニーズが高まっております。

このような状況の下、2020年2月期の業績予想につきましては、営業収益960百万円（前期比56.3%増）、営業利益60百万円（前期比137.9%増）、経常利益45百万円（前期比86.9%増）、当期純利益53百万円（前期比92.8%増）を見込んでおります。

なお、上記業績予想値は、2019年3月から12月までの実績数値に、2020年1月以降の業績予想値を合算して策定した予想数値となっております。

### 2. 業績予想の前提条件

当社は、知見プラットフォーム事業の単一セグメントであり、当社の取扱高の80%超(2019年2月期)を構成する主要サービスは、フルサポート形式のスポットコンサルの設営サービス「ビザスク interview」であります。その他、知見提供を活用したサービスとして、オンライン・アンケート形式で多数のアドバイザーの知見を一度に収集することをサポートする「ビザスク expert survey」や、知見と提供する側と知見を求める側が当社 web プラットフォーム上で自らマッチングを行い、スポットコンサルを実施するサービス「ビザスク lite」等のサービスを提供しております。

#### (1) 営業収益

##### ① ビザスク interview

当社は、顧客のニーズに応じて、ビジネス知見を有するアドバイザーと顧客をマッチングし、1時間単位の電話や対面でのインタビュー（当社では「スポットコンサル」と呼んでおります）を設営するサービスを提供しており、その中でも、当社が法人クライアントの依頼に基づきアドバイザーをマッチングするフルサポート形式のスポットコンサル設営サービス「ビザスク interview」を、当社のメインサービスとして提供しております。ビザスク interview のサービス提供に際し、当社は法人クライアントから当社サービスの利用料とアドバイザーに対する謝礼を受け取りますが、アドバイザーへの謝礼支払いを控除したサービス利用料を営業収益として計上しております。ビザスク interview は、取扱高同様、当社の営業収益の大半を占めております。

ビザスク interview の営業収益予想は、マッチング件数に単価を乗じて取扱高を計算し、そこからアドバイザーへの謝礼支払い額を控除し、更に値引き等を調整し、営業収益を算出しております。マッチング件数は、2019年2月期における実績及び2019年3月から12月までの実績値をもとに、以下のクライアント属性毎の戦略等を考慮して策定しております。

当社の主たる営業収益源であるコンサルティング・ファーム等のプロフェッショナル・ファーム向けに関しては、継続的な営業活動による新規顧客の獲得、及び既存顧客の社内展開の拡大に注力するとともに、知見データベースの拡大及びマッチング・オペレーションの改善により業務効率を引き上げることで、前期比41%増のマッチング数を見込んでおります。なお、マッチング数は、既存クライアント別に過去のマッチング数の成長率を勘案して算出しております。

投資ファンド・機関投資家を中心とした金融法人に関しても、プロフェッショナル・ファーム同様、継続的な営業活動による新規顧客の獲得、及び既存顧客の社内展開の拡大に注力するとともに、データベースの拡大及びマッチング・オペレーションの改善より業務効率を引き上げることで、前期比82%増のマッチング数を見込んでおります。なお、マッチング数については、PEファンド、機関投資家等のカテゴリー毎にクライアント・ベースの広さ、今後の浸透可能性を検討し、顧客の年間利用額の規模、顧客群を予測して算出しております。

事業法人に関しては、主にR&D費用が大きい素材系、テクノロジー系のクライアントを中心に、積極的な営業活動を展開し、前期比51%増のマッチング数を見込んでおります。

いずれのクライアント属性においても、販売単価は今期において概ね安定的に推移してきていることから、2019年12月付近における単価をもとに、同水準で推移することを前提に取扱高予想

1,201百万円を算出しております。また、アドバイザーへ支払う謝礼割合に関しても、今期において概ね安定的に推移してきていることから、2019年12月付近における割合をもとに、概ね同水準での推移を見込み、取扱高に乘じ、これを取扱高から控除することで、営業収益を算出しております。

② その他のサービス

当社は、メインサービスであるビザスク interview の他にも、知見提供を活用したサービスとして、ビザスク expert survey やビザスク lite 等のサービスを提供しております。

ビザスク expert survey の営業収益予想については、一案件あたりの想定取扱高に、想定案件数を乗じること取扱高を算出しております。一案件あたりの想定取扱高は2019年3月から12月までの実績をもとに、想定案件数は足元の営業の進捗を勘案して算出しております。謝礼総額は2019年3月から12月までの実績をもとに、謝礼割合が概ね同水準で推移することを前提に、上記により算出した取扱高に謝礼割合を乗じ、これを取扱高から控除することで、営業収益を算出しております。

また、ビザスク lite の営業収益予想については、基本的な算定方法はビザスク interview と同様であります。予想マッチング数の策定にあたっては、2019年8月の当社サービスサイトのリニューアルに代表される継続的なUI/UXの改善による成長による増加を見込んでおります。なお、セルフマッチング形式の謝礼は、取扱高の30%としております。

(2) 営業費用、営業利益

営業費用の主たる項目は、人件費、採用費、広告費となります。人件費、採用費については、2020年2月期末における役職員数を107名（前期比末62.1%増）とする人員計画に基づき策定しております。また、広告費については、依頼者向けの広告を拡大するとともに国内外のアドバイザー獲得のための広告費として42百万円（前期比6.5%増）を見込んでおります。

(3) 営業外損益、経常利益

営業外損益は支払利息及び上場関連費用等の発生を見込み、2020年2月期の営業外費用は15百万円を見込んでおります。以上の結果、2020年2月期の経常利益は45百万円（前期比86.9%増）を見込んでおります。

(4) 特別利益・損失、当期純利益

特別利益は見込んでおりません。特別損失は、新株予約権消却損失として4百万円の計上を見込んでおります。以上の結果、2020年2月期の当期純利益は53百万円（前期比92.8%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以上

2020年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年3月10日

上場会社名 株式会社ビザスク 上場取引所 東  
 コード番号 4490 URL https://visasq.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 端羽 英子  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 安岡 徹 TEL 03(6407)8405  
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第3四半期の業績(2019年3月1日~2019年11月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第3四半期	697	-	61	-	57	-	54	-
2019年2月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第3四半期	7.16	-
2019年2月期第3四半期	-	-

- (注) 1. 当社は、2019年2月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2019年2月期第3四半期の数値及び2020年2月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。  
 2. 2019年8月30日付で、普通株式1株につき50株の株式分割を行っておりますが、2020年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。  
 3. 2020年2月期第3四半期累計期間の1株当たり四半期純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。  
 4. 「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第3四半期	596	101	17.0
2019年2月期	480	46	9.6

(参考) 自己資本 2020年2月期第3四半期 101 百万円 2019年2月期 46 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2020年2月期	-	0.00	-	-	-
2020年2月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2020年2月期の業績予想(2019年3月1日~2020年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	960	56.3	60	137.9	45	86.9	53	92.8	6.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年2月期3Q	7,685,000株	2019年2月期	153,700株
------------	------------	----------	----------

② 期末自己株式数

2020年2月期3Q	－株	2019年2月期	－株
------------	----	----------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2020年2月期3Q	7,685,000株	2019年2月期3Q	153,700株
------------	------------	------------	----------

(注) 2019年8月30日付で、普通株式1株につき50株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数（自己株式を含む）、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	4
第3四半期累計期間 .....	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	5
(継続企業の前提に関する注記) .....	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	5
(セグメント情報等) .....	5
3. その他 .....	6
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、米国や中国を中心とした通商問題や英国のEU離脱をめぐる動向に関心が高まっている中、国内の企業収益は非製造業を中心として高い水準を維持し、また、雇用情勢は引き続き着実に改善しております。

当社が属する情報・サービス系の産業においても、好調な企業業績と益々高まる情報の重要性に支えられ、概ね良好な事業環境が継続しました。BtoB情報プラットフォーム市場の売上高規模は、2019年1月～10月の合計で2,498億円(前年同期比2.2%増加)となり、着実に成長しております(経済産業省「特定サービス産業動態統計調査(2019年12月公表)」)。

このような状況の下、当第3四半期会計期間における知見プラットフォーム事業は、順調に成長を続けております。特に、フルサポート形式のスポットコンサル設営サービス「ビザスクinterview」においては、継続的な法人クライアント基盤の拡大に注力しており、その他サービスでは、UI/UXの継続的な改善・向上等の様々な施策を継続しております。

以上の結果、当第3四半期会計期間末時点で国内登録者数(注)は約8.6万人を超え、また、当第3四半期累計期間における当社のアレンジしたフルサポート形式のスポットコンサルによる知見提供取引の件数(「ビザスクinterview」のみ)は約9千件となり、取扱高は知見プラットフォーム事業全体で1,120百万円となり、当第3四半期累計期間における営業収益は697,872千円、営業利益61,299千円、経常利益57,580千円、四半期純利益54,995千円となりました。

なお、当社は知見プラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(注)「国内登録者数」は、当社日本語webサイトにて登録をした人数の合計であります。国内登録者は、知見を提供する個人(アドバイザー)と、これを求める個人(「ビザスクlite」における依頼者。また、「ビザスクlite」を活用するための契約を締結した法人に所属し、当該契約に基づき登録された個人を含む。)に分かれております。いずれの登録者もアドバイザーとしてフルサポート形式「ビザスク」及びセルフマッチング形式「ビザスクlite」で活動することができ、また、依頼者として「ビザスクlite」を利用することができます。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は596,670千円となり、前事業年度末より116,042千円増加しました。これは主に、事業規模の拡大により現金及び預金等が増加したことにより流動資産合計が118,317千円増加したことによるものです。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は494,875千円となり、前事業年度末より60,418千円増加しました。これは主に、事業規模の拡大により法人クライアントから収受する前受金が増加したことにより流動負債合計が71,526千円増加したことによるものです。一方、借入金の約定弁済により固定負債は11,108千円減少しました。

#### (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は101,795千円となり、前事業年度末より55,625千円増加しました。これは当第3四半期累計期間に四半期純利益54,995千円を計上したことのほか、新株予約権を発行したことによる新株予約権の増加629千円によるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の業績予想につきましては、本日開示いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2019年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	234,520	335,579
売掛金	150,865	161,931
その他	27,481	33,674
流動資産合計	412,868	531,185
固定資産		
有形固定資産	20,690	16,287
投資その他の資産	47,069	49,197
固定資産合計	67,760	65,485
資産合計	480,628	596,670
負債の部		
流動負債		
買掛金	50,716	58,408
1年内返済予定の長期借入金	16,668	15,275
未払金	33,515	39,398
前受金	89,904	128,153
その他	42,545	63,639
流動負債合計	233,349	304,875
固定負債		
長期借入金	201,108	190,000
固定負債合計	201,108	190,000
負債合計	434,457	494,875
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,682	18,682
利益剰余金	27,488	82,484
株主資本合計	46,170	101,166
新株予約権	-	629
純資産合計	46,170	101,795
負債純資産合計	480,628	596,670



(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
営業収益	697,872
営業費用	
役員報酬	32,374
給与手当	277,111
その他	327,086
営業費用合計	636,573
営業利益	61,299
営業外収益	
受取利息	16
その他	59
営業外収益合計	76
営業外費用	
支払利息	1,532
為替差損	262
上場関連費用	2,000
その他	0
営業外費用合計	3,794
経常利益	57,580
特別損失	
自己新株予約権消却損	4,067
特別損失合計	4,067
税引前四半期純利益	53,513
法人税、住民税及び事業税	150
法人税等調整額	△1,632
法人税等合計	△1,482
四半期純利益	54,995

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3半期累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

**【セグメント情報】**

当第3四半期累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

当社は、知見プラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。